

楕円曲線の高さ関数の差の評価

内田 幸寛

名古屋大学大学院多元数理科学研究科

導入

K を代数体, E を K 上の楕円曲線とする. このとき, E の K 有理点全体 $E(K)$ は有限生成 Abel 群となることが知られている (Mordell-Weil の定理). $E(K)$ を Mordell-Weil 群と呼ぶ. Mordell-Weil 群を研究する際, 高さ関数 (height function) が重要である. 高さ関数は, $E(K)$ 上の実数値関数であって, 有理点の数論的複雑さを反映する.

よく使われる高さ関数として次の 2 つがある.

• h : ordinary height, Weil height, naive height

計算が容易である. また, 高さが小さい点を直接探せる.

• \hat{h} : canonical height, Néron-Tate height

$E(K) \otimes \mathbb{R}$ 上の 2 次形式であり, 理論的に扱いやすい.

この 2 つの高さ関数の差について, 次の定理が知られている.

定理 1. E の定義式と K にのみ依存する定数 c_1, c_2 が存在して, 任意の $P \in E(K)$ に対し,

$$c_1 \leq h(P) - \hat{h}(P) \leq c_2$$

が成り立つ.

この定数 c_1, c_2 は $E(K)$ の基底の計算や, E 上の整数点の計算などに用いられる. c_1, c_2 の評価が良くなると計算が速くできる.

c_1, c_2 の具体的な評価には次のような研究がある.

Dem'janenko	1968
Zimmer	1976
Silverman	1990
Siksek	1995
Cremona, Prickett, Siksek	2006

評価の方法は様々であるが, 筆者の方法 [5] は, Cremona らの方法 [1] と同様に, 高さを局所高さの和に分解し, それぞれを評価することによって全体の評価を得る. 彼らは有限素点に対する局所高さについては最良の結果を得ているので, 無限素点に対する評価の改良を行えばよい. 彼らは評価のために 2 倍写像を用いたが, ここでは $m \geq 2$ として m 倍写像を用いる. これによって評価の改善が可能となる.

記号

楕円曲線 E が Weierstrass 方程式

$$E: y^2 + a_1xy + a_3y = x^3 + a_2x^2 + a_4x + a_6$$

で与えられているとする. ただし, a_1, \dots, a_6 は K の整数とする.

M_K を K の素点全体, M_K^f を K の有限素点全体, M_K^∞ を K の無限素点全体として, $v \in M_K$ に対し, K_v を K の v における完備化とする. $n_v = [K_v: \mathbb{Q}_v]$ とおく. n_v は局所次数と呼ばれる.

K 上の絶対値 $|\cdot|_v$ を, 積公式

$$\sum_{v \in M_K} n_v \log |x|_v = 0 \quad (\forall x \in K^\times)$$

が成り立つように定める.

高さ関数を次のように定める.

$$h(P) = \frac{1}{[K: \mathbb{Q}]} \sum_{v \in M_K} \log \max\{1, |x(P)|_v\},$$

$$\hat{h}(P) = \lim_{l \rightarrow \infty} \frac{1}{4^l} h(2^l P).$$

ϕ_m, ψ_m^2 を E の乗法多項式 (multiplication polynomial) とする. このとき, $x(mP) = \phi_m(x(P))/\psi_m^2(x(P))$ となる.

$v \in M_K$ とする. m を正整数として, 関数 $\Phi_{m,v}: E(K_v) \rightarrow \mathbb{R}$ を

$$\Phi_{m,v}(P) = \frac{\max\{|\phi_m(x(P))|_v, |\psi_m^2(x(P))|_v\}}{\max\{1, |x(P)|_v\}^{m^2}}$$

と定義する. さらに,

$$\varepsilon_{m,v}^{-1} = \inf_{P \in E(K_v)} \Phi_{m,v}(P), \quad \delta_{m,v}^{-1} = \sup_{P \in E(K_v)} \Phi_{m,v}(P),$$

$$S_v(m) = \frac{\log \delta_{m,v}}{m^2 - 1}, \quad T_v(m) = \frac{\log \varepsilon_{m,v}}{m^2 - 1}$$

とおく.

主定理

定理 2 ([5]). m を 2 以上の自然数とする. 任意の $P \in E(K)$ に対し,

$$\frac{1}{[K: \mathbb{Q}]} \sum_{v \in M_K^\infty} n_v S_v(m) \leq h(P) - \hat{h}(P) \leq \frac{1}{[K: \mathbb{Q}]} \sum_{v \in M_K^\infty} n_v T_v(m) + \frac{1}{[K: \mathbb{Q}]} \sum_{v \in M_K^f} C_v.$$

ただし, C_v は E の係数 a_i と素点 v から有限時間内に計算できる定数であり, 有限個の v を除いて $C_v = 0$ である.

注意 3. $m = 2$ の場合が Cremona らの結果 [1] にあたる.

m の値に対する変化

命題 4. $v \in M_K$ とし, $m \geq 2, l \geq 1$ を自然数とする. このとき,

$$S_v(m) \leq S_v(m^l), \quad T_v(m^l) \leq T_v(m).$$

すなわち, 定理 2 の評価は m を m^l に変えたとより強くなる.

注意 5. m が m^l の約数であっても,

$$S_v(m) \leq S_v(m^l), \quad T_v(m^l) \leq T_v(m)$$

とは限らない. 反例が存在する.

例

楕円曲線

$$E: y^2 = x^3 - 459x^2 - 3478x + 169057$$

を考える. 定理 2 より $E(\mathbb{Q})$ 上で次の評価を得る.

$$-6.531924724 \leq h - \hat{h} \leq 0.4620981204 \quad (m = 2),$$

$$-5.228881425 \leq h - \hat{h} \leq 0.4620981204 \quad (m = 3),$$

$$-5.227187136 \leq h - \hat{h} \leq 0.4620981204 \quad (m = 4),$$

$$-5.006931796 \leq h - \hat{h} \leq 0.4620981204 \quad (m = 5).$$

Silverman [4] の評価:

$$-15.40309857 \leq h - \hat{h} \leq 18.74780624.$$

Zimmer [3] の評価:

$$-8.208491752 \leq h - \hat{h} \leq 16.41698351.$$

Cremona ら [1] によれば,

$$h(P) - \hat{h}(P) = 0.4620980788 \dots,$$

$$h(P) - \hat{h}(P) = -4.900153342 \dots$$

となる $P \in E(\mathbb{Q})$ が存在する. 彼らは, $m = 2$ にあたる結果を述べた後で,

We leave it to the reader to draw their own conclusions.

と述べているが, 上で見たように, さらに良い評価が得られることが実証される.

参考文献

- [1] J. E. Cremona, M. Prickett, S. Siksek, Height difference bounds for elliptic curves over number fields, *J. Number Theory* **116**, 42–68 (2006).
- [2] S. Siksek, Infinite descent on elliptic curves, *Rocky Mountain J. Math.* **25**, 1501–1538 (1995).
- [3] S. Schmitt, H. G. Zimmer, *Elliptic Curves: A Computational Approach*, de Gruyter Studies in Mathematics 31, Walter de Gruyter, 2003.
- [4] J. H. Silverman, The difference between the Weil height and the canonical height on elliptic curves, *Math. Comp.* **55**, 723–743 (1990).
- [5] Y. Uchida, The difference between the ordinary height and the canonical height on elliptic curves, preprint, (2006).